
とある科学の超電磁砲？

阪神虎之介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある科学の超電磁砲？

【Nコード】

N4207X

【作者名】

阪神虎之介

【あらすじ】

学園都市で過ごす風紀委員が繰り広げるドタバタハチャメチャな物語

THE・プロローグ（前書き）

始まり〜始まり〜

THE・プロローグ

東京の西部を開拓しイロイロな研究所がそこにぶち込んだ結果、世界有数の科学都市が生まれた。

人はその名を「学園都市」と呼んだ。

チンピラ「なんなんや！この女！ホンマに人間か！」

チンピラはある女と対決していた。

それにチンピラ達が絡んだがその女が強く、10人程いた方達ですでに1人になっていた。

チンピラ「男として負けたらあかん、只でさえ男性の地位が下がってるのに俺達がこんな小生意気なガキに負けたらさらにアカン」

この女「どうしたのよ、早くかかってきなさい」

「この女」は頭から電撃見たいなのを繰り返した。

チンピラ「前言撤回、逃げる」

チンピラは逃げ出した。

チンピラ「あゝもゝツいてない！金貰おうと思って絡んだねえちゃんがあるじゃとてもやってられんわ」

チンピラは路地を走り回るが

チンピラ「へ？」

【ゴッ！】

チンピラ「ギャ！」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「『風紀委員』です、暴行未遂の現行犯で拘束しますの」

チンピラ「イダイイダイイダイイダイイダイイダイイダイ！
！」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「おとなしく観念してくださいな」

チンピラ「するするするするする！！！」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「さもないと腕をへし折りますわよ？」

チンピラ「話聞いてる！？観念してるがな！？アダダダダ！！！」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「確保！…さて
っと」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子はチンピラに手錠をかけると路地にいる「この女」に声をかけた。

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「風紀委員ですのーそちらの方大丈夫ですか？今助けにー」

そう言った瞬間、「この女」は後ろを振り返り、一言。

この女「あ！黒子」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子もとい黒子「…通報にあった路地裏に連れ込まされた女性というのは、お姉様の事でしたの…」

この女もといお姉様「どーしたの？」

THE・プロローグ（後書き）

次からオリ主初登場

THE・オリ主（前書き）

オリ主初登場

THE・オリ主

ここは柵川中学校、ごくごくありふれた学園都市の中学校である。

全校生徒は勿論「学園都市能力検定」をやり、自分の能力と級がわかってる。

まあそれはどの学園都市の学校もそうだけど

一年生の教室にて

男？「ZZZZZZZ」

女？「ZZZZZZZ」

二人の男女が気持ちよく寝ていた。

先生「……………（怒）」

勿論、先生は黙って二人の事を見つめてる。

男？「オイ、起きろや」

女？「佐天さん起きてください」

女？もとい初春飾利は女？もとい佐天涙子を起こそうと試みる。

佐天「うゝん…」

起きる気配はない。

男？「おい、起きんか！起きろよ…起きないな」

この初春と違い、更々起こす気が無い男、桜井広はぐっすり寝てる男、熊谷雅布くまがいまさのぶを教科書で殴った。

雅布「グハア！？」

雅布は起きた。

雅布は辺りを見回すと…

雅布「おい桜井起きろ」

桜井「起きとるわ」

先生「おい佐天早く起きろ」

佐天は勢い良く起き上がり…

佐天「え、あ…すみません！」

先生「二人共廊下に立ってろ！」

佐天「はー「ヤダ」い」

先生「熊谷！何がやなんだ！言って見ろ！」

雅布「だって寝てただけですよ!？」

先生「能力に関する重要な授業だ!寝るなんて言語道断!廊下に立つとけ!」

雅布「俺レベル4なんですけど!？」

先生「関係あるのか!?レベル5目指さないのか!?」

雅布「はい!！」

桜井「堂々ということか…」

さすがの先生も

先生「ふざけんな!立ってろ!」

雅布「へい」

先生「ったく」

結果的に雅布は風紀委員じゃ異例の学年指導を受けるハメになった。

桜井「雅布って風紀委員だったんだ…」

初春「あまり認めたくないですけどね…」

・
・
・
・

・ ・ ・ ・
「風紀委員第177支部にて」

そこにはデスクワークをやっている初春と始末書を書いている白井黒子とスナック菓子を頬張り昨日の阪神の結果を眺めている雅布がいた。

雅布「昨日は広島に3ー1か：鳥谷5号2ラン：岩田の完投か：」

黒子「雅布もちゃんと風紀委員としての自覚を持って欲しいのですの、最近雅布の仕事にはやる気が感じられないですの」

雅布「だって風紀委員って学校内だけじゃん」

初春「それはそうでそうけど：学校内以外の事件を取り扱うのは基本的に『警備員』の仕事ですし：」

雅布「白井みたいになさ、学校外でも暴れる奴が普通だと思うけど：」

個法「デスクワークも普通の風紀委員の仕事も大事な事よ」

雅布「いきなりなんですか！？」

この「アンタ誰だよ！？」「見たいな感じで話の中に乱入してきた方は個法先輩

え？「個法先輩」じゃなくて本名で書けと？

じゃ名前教えろや!!!

個法「昨日の阪神はもういいからさっさと雅布は巡回してきて、黒子は第7学区で起こった『学舎の園の生徒襲撃事件』の調査を」

雅布「それどう考えても犯人変態だよな…バカだろ…」

個法「雅布!!!!」

雅布「ヘイヘーイ」

こいつの名は「風紀委員のうつけ者」熊谷雅布

そいつの詳細はまた何処で…

THE・オリ主（後書き）

次回は人物紹介です。

あと個法先輩の名前、ガチで知らないんで知ってる人教えてくれい

THE・登場人物紹介 熊谷雅布 and 桜井広（前書き）

二人ただです

THE・登場人物紹介 熊谷雅布 and 桜井広

熊谷雅布くまがいまゆのぶ：柵川中学に通う一年。一応この作品の主人公、レベル4で黒子と同じ能力と言う稀に見る同一能力の持ち主。上に二人兄がいるが、出すからそんな時で。合気道、柔道など格闘術に長けていることから風紀委員からスカウトされ入ったのはいいがその結果「風紀委員の両さん」や「うつけ者」と呼ばれるハメに…
大の阪神ファンである。

桜井広さくらいひろし：雅布と同じく柵川中学一年。レベル2の電磁を扱う能力だったと彼は語る。雅布とコンビを組んでいる。実は風紀委員なのだが…雅布曰わく「風紀委員の鬼」

THE・登場人物紹介 熊谷雅布 and 桜井広（後書き）

「こちら葛飾区亀有公園前派出所」に触れた所はありますが、「こちら葛飾区亀有公園前派出所」は原作じゃないので、いい例えが見つからなかったの…

THE・熊谷雅布 and 御坂美琴（前書き）

二人が初めて出会います。

THE・熊谷雅布 and 御坂美琴

その日私、熊谷雅布は個法美偉先輩に頼まれ第160支部まで行ってよくわからない試験管をよくわからない施設によくわからない車で行った後、徒歩で自分の家（柵川中学校男子寮）に戻ろうとした。

雅布「何だったんだろうな？あの液体？」

私はあの試験管に入ってた液体が異様に気になっていたが、その後3分で忘れた。

私はあるコンビニに立ち寄った。

飲み物と漫画が買いたくなっただけである。

雅布「このコンビニ立ち読みが出来るんか」

私はこのコンビニが立ち読みできると知ってたし驚いた。

雅布「で、何でこんなしわくちゃになってんだ？」

私はコンビニの漫画が全部独特な形でしわくちゃになっている。

明らかに同一犯の仕業だ：

まあどうせ近くのチンピラか小学生かなと言う気持ちで私は唯一しわくちゃになっていない「週刊ベースボール」を眺めた。

学園都市でも週刊ベースボールは売っている。

今週は【捕手の哲学】という記事だ。

ヤクルトの相川、阪神の城島、千葉ロッテの里崎と各チームの捕手の記事がワンサカと掲載されている。

私が週べに没頭してると：

「あ、新しくなってる」

ある女子の声でした。

雅布は週べを読みながら横目でその女子を見た。

その女子は黒子と同じ制服を来ていた。

雅布（あれって確か白井と同じ制服だよな…じゃ同じ学校か…あれ？白井って『学舎の園』の生徒じゃなかったけ？なんでそんなリッチマンがこんな場所にいるんだ？）

雅布はそう考えているとその女子は立ち読みし始めた。

雅布（こんな女子も立ち読みするんだな）

そんな事考えてると雅布はあることに気がついた！

雅布（コイツ…本の隅っこを手でこすりつけてる！）

雅布はこんな高貴な女子も立ち読みをしてしわくちゃんにして店員に嫌がらせするんだなあ〜と感じたとか

店員（立ち読みはやめてくれい（泣））

（御坂視点）

私がコンビニに新刊見にきたらちようど私と同じくらいの人が立ち読みしていた。

「風紀委員」の紋章をしてたから風紀委員なんだ

しかも胸バッチに「第177愚連隊」って書いてある…黒子と同じ支部なのかな？

雰囲気が近寄りたがくちよつと間を空けて立ち読みしていた。

するとその愚連隊の人が私の事をチラチラ見てる。

恐らく「常盤台のお嬢様だ」とか変な事考えてるんでしょ…

そんなのお見通しよ

（雅布視点）

アレどこの制服だっけ？「長点上機学園」だっけ？

あそこは黒か…

「桜ヶ丘高校」だっけ？

あれは別の作品だ…

「常盤平中学校」だっけ？

それは和田コーチの出身中学だ：

そうだ！「常盤台中学」だ！

御坂の「常盤台のお嬢様」より程遠い雅布の思考だった。

THE・熊谷雅布 and 御坂美琴（後書き）

恋愛？なったら凄いな（笑）

こちら風紀委員第177愚連隊隊長の熊谷雅布です（前書き）

「THE」が付かなくなりました。

こちら風紀委員第177愚連隊隊長の熊谷雅布です

立ち読み女の子御坂は新刊の立ち読みが終わった後、何も買わずにコンビニを後にした。

風紀委員第177愚連隊の雅布は週刊ベースボールとサイダーを購入し、コンビニを後にした。

その後白井黒子宛にメールで

「常盤台に立ち読み女の子っている？」

・ ・ ・ ・

雅布はある路地裏に入った。

そこにはさっき会った「立ち読み女の子」がいた。

その「立ち読み女の子」の周りにピアスや五輪刈り等をした不良共がいた。

雅布（なんだい？「立ち読み女の子」は立ち読みだけじゃなく軍団でも作ってんのかい？本当にコイツ常盤台か？）

そう雅布は考えてるいたが：

不良達の身ぶり手ぶり等で「絡まれんじゃねえの？」と彼は予測した。

なんか「立ち読み女の子」の戦闘力は強そうであんなチンピラなんかひと捻りかな？と考えたが。

雅布（ここは風紀委員の仕事をやろう）

そう言って雅布は不良達に近づいていった。

雅布「えー、風紀委員の者です。オマイラ何やってんだ？」

不良？「んだテメエは？」

不良？「風紀委員かあ？」

雅布「風紀委員だけど？そこでさあ〜カットアゲとかされちゃ困るんだよ？やるなら違う場所でやって？せめてトイレでやって」

御坂（え？助けないの？）

不良？「ウザいんだよ風紀委員は！！！」

雅布「人の話聞けやバカかお前は！？」

不良？「死ねえゴラァ！」

不良？は雅布に殴りかかった！

雅布は軽く避けると相手の腹にカウンターを喰らわした。

不良？「グフウ…」

不良？は倒れ込んだ。

不良？「この野郎！」

不良？がナイフを取り出して雅布に切りかかる！

御坂（危ない！）

不良？「グハァ！！」

御坂「え？」

雅布は不良？が繰り出したナイフを持ってる左手を掴んで手首を捻りナイフをもぎ取ると足を引っ掛け、転倒させた。

雅布「まったく大人しく事情聴取に応答すればいいものを…結果、お前らは『公務執行妨害』をやり、お縄に捕まる…バカじゃねえの？」

そう言いつつ雅布は不良達に手錠をかけてゆく

不良？「畜生！なんで風紀委員が来たんだよ！風紀委員は学校だけだろ！活動が！」

雅布「こういうところで検挙率をあげていると学歴に良い印象を与えるんだよ、それに俺は白井黒子見たいに無闇やたらに能力など使わん、能力なんて使ったら業務に響くからなく、こういう『公務執行妨害による正当防衛』なら良いんだよ、管轄外だが…」

不良？「お前本当に風紀委員なのか？この前あった風紀委員は『そう言う事していいんですか？』とかいう超超クソ真面目な奴だった
が」

雅布「いやいや、俺はそう言う奴じゃないから」

不良？「そう言われると風紀委員も悪くは無さそうだな」

雅布「最初の頃は研修とかで格闘技覚えさせられるから喧嘩にも強くなれるよ」

不良？「考えとく」

雅布「いいけどさ、とりあえず一緒に風紀委員に行こうか、逮捕しちゃったんだから聴取とらねえんといけないんだわ」

御坂「それって私も来なきゃいけない？」

雅布「勿論」

こうして雅布は風紀委員第177支部に行ったとき

（白井と初春は仕事の関係で雅布、御坂と会わず）

こちら風紀委員第177愚連隊隊長の熊谷雅布です（後書き）

次は「白球夢見て」の方をちよつと書くんで

そちらもよろしくお願いします。

レストラン（前書き）

桜井広、久々の登場

レストラン

その日雅布は桜井広とあるレストランにいた。

桜井はアイステイーを注文して本を読みながらゆっくり飲んでいたが雅布はドリンクバーの烏龍茶を飲み干した後、机に突っ伏して寝ていた。

桜井（……………ん？）

するとあることに気がついた桜井は持ってた本で雅布をたたき起こした。

雅布「いった！なにすんねん！」

桜井「あれ黒子じゃね？」

そう言って桜井が指差す方を雅布が見ると、確かに窓側の方に白井黒子と前話で出た「立ち読み女の子」がいた。

雅布「やっぱり白井と知り合いか…どうりで先日やたらソワソワしてると思った…」

桜井「黒子と一緒にいる奴知ってるのか？」

雅布「ああ、『常盤台の超電磁砲』でお馴染みの御坂美琴様よ、先日不良に襲われている所を俺が救出、調書を取ってる時に『常盤台の超電磁砲』って分かった訳よ」

桜井「じゃ黒子の先輩か」

雅布「しかし白井の奴なにやってんだ？アイツ今日仕事のはずだぞ？」

桜井「俺達もじゃね？」

雅布「俺達はいいの、今日は『パトロールを自主的にやれ』との支持だ」

桜井「最近俺達の仕事おかしくないか？今日のソレといい、先日の謎の液体を運ぶとか」

雅布「あれ俺だけじゃなくて白井も初春もやらされたらしいじゃん？何なんだアレ？」

桜井「俺はその液体を見てないから知らん」

雅布（確かに気になるな…）

白井「オネエエサマアア！！」

雅布・桜井「！！？」

※知ってる人は知ってると思うが、白井黒子はいきなり御坂美琴に抱きついた。

雅布「やはりあのアマ、レズか…」

桜井「レズか…」

雅布「手塚治虫の『MW』って言う漫画に同性愛の事書いてあるべ」

桜井「それ確か映画化した奴だよね？」

雅布「まあ手塚治虫は『火の鳥』とか『ブラックジャック』とかシリ阿斯な物も書いてあるから」

雅布と桜井が手塚治虫について語っていると白井と御坂はレストランから追い出された。

それを見た雅布と桜井もレストランから出たのであった。

レストランを出て右側を見ると白井と御坂と初春と佐天がいた。

雅布「あれ初春ちゃん、えーと隣にるのが…」

桜井「佐藤」

雅布「そうそう佐藤、佐藤」

雅布（確かに気になるな…）

白井「オネエエサマアア！！」

雅布・桜井「！！？」

※知ってる人は知ってると思うが、白井黒子はいきなり御坂美琴に抱きついた。

雅布「やはりあのアマ、レズか…」

桜井「レズか…」

雅布「手塚治虫の『MW』って言う漫画に同性愛の事書いてあるべ」

桜井「それ確か映画化した奴だよね？」

雅布「まあ手塚治虫は『火の鳥』とか『ブラックジャック』とかシリ阿斯な物も書いてあるから」

雅布と桜井が手塚治虫について語っていると白井と御坂はレストランから追い出された。

それを見た雅布と桜井もレストランから出たのであった。

レストランから出て右側を見ると白井と御坂と初春と佐天がいた。

気にせずその場を通り過ぎようとしたら

【ゴン！！】

雅布「？」

何かに当たった衝撃を感じたので下を見ると

白井黒子の頭を蹴っていた。

雅布「何そこで呑気に寝てんねん、蹴られたいのか？」

そう言つて雅布は執拗に白井黒子を蹴る。

初春「なんで雅布さんがいるんですか？」

雅布「何だよそれ、いたら邪魔見たいな言い方は？」

レストラン（後書き）

感想お待ちしております！

銀行強盗

とりあえず話に割り込んだんで雅布と桜井は御坂に自己紹介した。

雅布「柵川中学に通う初春と佐藤の同級生の熊谷雅布です。」

桜井「同じく同級生の桜井広」

御坂「私は御坂美琴…ってアナタは知ってるのよね…」

そう言っつて御坂は雅布に目を向けた

白井「え…お姉様どこでこんな野蛮人と…」

雅布「先日コイツが不良達に囲まれていてさ、まあ色々あって止めたわけだ。んで被害者のコイツの調書を取っただけだ」

白井「そうですの」

初春「だけど雅布さん目上の人に『コイツ』は無いと思いますよ」

雅布「え？」

白井「そうですの雅布、お姉様は中学2年ですよ」

雅布「そうなの!？」

3人の身長の比

御坂く雅布く桜井

御坂「え？あなた中1だったの？」

雅布「じゃあ何歳だと思っていたんだ？」

御坂「高校生くらい？」

雅布「ケッ…」

雅布はそう吐き捨てると

雅布「さて俺らは警邏に行きますかあ」

桜井とどっか行ってしまった。

御坂「何なのアイツは？」

白井「申し訳ございませんお姉様、彼は凶体と見かけは野蛮人ですが性格は良い方なのです」

初春「白井さんの言うとおり雅布さんは良い人ですよ」

佐天「私の事を佐藤とか言っただけ…」

初春「知らなかっただけだと思います」

雅布と桜井はある広場に着いた。

雅布「あゝ、ダリィ」

桜井「アイスでも食おうぜ」

雅布「そうだな」

そう言って雅布と桜井は色々な所で暇つぶしをした。

そうこうしてると

【ズガン！！】

いきなり爆発音が聞こえた。

雅布・桜井「？」

雅布と桜井が爆発音のする方を見ると

近くの銀行から煙が出ていた。

雅布「銀行強盗かな？」

そう言うとき銀行の中から

？「よっしゃ引き上げるぞ！」

？、？「ヘイ！」

雅布はテレポートを使い犯人達の所へ行った。

【シュン！】

雅布「つーかまーえた！」

？「ギャアアア！」

・ ・ ・ ・ ・

桜井「やっぱりあれだよな、お前の捕まえ方は危ないよ」

雅布「そう？」

銀行強盗（後書き）

白井「私達の出番が取られたのですの」

御坂「そうね…」

登場人物紹介その？御坂、白井、初春、佐天、個法編（前書き）

超簡単に

登場人物紹介その？御坂、白井、初春、佐天、個法編

御坂美琴…「超電磁砲」をぶっ放すお嬢様として広くその名が知られている。原作だったら前話で超電磁砲をぶっ放す予定だったが雅布により出番無しに追い込まれた。

上条×御坂は筆者は考えてないとの事。

白井黒子…レズ。いつも御坂に取り付いているため風紀委員の間じや「百合の黒子」とか呼ばれる。コイツも雅布により出番無しに追い込まれる。

初春飾利…只でさえ「阪神ファンのタイガース日記」の出番が無くなっているのにこっちじや白井黒子以上に出してない気がする。

佐天涙子…雅布に「佐藤」と呼ばれる。存在感出してるように見えるが雅布には認識されてない。

まだ2つぐらいしか台詞が無い。

個法美偉…筆者が「名前を覚えてなかった」人。

登場人物紹介その？御坂、白井、初春、佐天、個法編（後書き）

頻繁にやります。

液体の正体

銀行強盗事件が終わった日の夜

【カタカタカタカタカタカタカタカタカタカタカ】

雅布は自室でパソコンのワードを打っていた。

雅布「これで…よしと、後はこのビンを詰めて…」

雅布は自室の窓を開け

雅布「頼んだぞ」

ハト「クルツクー」

一匹のハトを飛ばした。

（東京・防衛省）

自衛隊等、日本の防衛を担当する省の地下に秘密結社じゃないがある組織が存在する。

基本的に一般人は知らなく、防衛省に通う人でも知らない人がいる。

その名を「防衛省情報局」通称「MDIS」と呼んだ。

局長「…しかしよく学園都市からこんな情報を持ってこれたな…」

雅之「幾ら学園都市でもまさか伝書鳩を飛ばしているとは思わなかったと思います」

彼の名は「熊谷雅之」

熊谷雅布の実兄である。

彼の表向きの顔は「陸上自衛隊の三佐」だがその正体は「防衛省情報局の職員」である。

普段はデスクワークだが実際現地にいくこともある。

局長「しかし…これが『アレ』だったら大変な事になるぞ…」

雅之「はい」

局長の机の上には以前、雅布が風紀委員の仕事で配送した「謎の液体」が置かれている。

雅之「調べた所、『GUSHO』に間違いのないとの事です」

局長「そうか…」

局長室に沈黙が流れる。

局長「それじゃ熊谷三佐は引き続き学園都市の調査にあたれ、GUSHOについてはこちらで配慮する」

雅之「了解」

・ ・ ・ ・ ・

雅布「何だと…」

雅布は返信の伝書鳩が持ってきた手紙を読んで愕然とした。

「液体の正体はGUSHO」

この一言で充分だった。

雅布はこの手紙を見た後すぐライターで燃やし、灰にした。

調査依頼（前書き）

あのグループが初登場です。

調査依頼

雅布は液体の正体がGUSHOだと知るとある場所に向かった。

そこは平凡なレストラン。

そこに入ると4人の女子がいた。

一人は目がつり上がり鮭弁食ってる

一人は映画雑誌を眺めてる。

一人はパフェを頬張っている金髪外人

一人は目を開けながら寝てる電波少女

暗部組織「アイテム」のメンバーだ。

鮭弁を頬張る隊長の麦野

B級映画が大好きな絹旗

一番弱そうだけど一番重要な滝壺

それと部下一名

フレンダ「忘れてる！忘れてる！自己紹介させて！」

なんか五月蠅い蠅がいるので作者権限で抹殺

フレンダ「ギャアアア!!」

……すると話しが続かないので

フレンダ「ホッ」

麦野「雅布か、何のようだ？」

雅布「依頼を頼みに来た」

絹旗「ぶっちゃけ雅布が持ってくる依頼は超不気味で嫌なんですよ」

滝壺「大丈夫、私はそんな雅布を応援する…」

雅布「いやいや、今回は簡単ですよ、何だって『ある研究所に行つてある資料を盗んでくる』だから」

麦野「なんで私らがそんなこそ泥見たいな事やらないといけないんだ!?!?!?!」

麦野はそう言うときを思い切り叩いた。

雅布「誰がこそ泥やれといった。方法は問わない、とりあえず俺は資料が欲しいだけだ」

絹旗「その資料はどんな資料なんですか？」

雅布「GUSHOっていう液体がある。それについての資料だ」

麦野「報酬は？」

麦野がそう言うと雅布は不敵な笑みを浮かべた。

調査依頼（後書き）

時期はアニメでいう「常盤台襲撃事件」の前後

アイテムのお仕事（前書き）

雅布は不敵な笑みを浮かべた。

雅布「鮭弁と鯖缶、映画雑誌でいい？」

アイテムのお仕事

くその日の夜く

麦野以下4人はある研究所にいた。

麦野「ここか…」

絹旗「超警備員がいますね」

※「アンチスキル」じゃなく「けいびいん」

フレンダ「ぶっちゃけ、こそ泥見たいな事をやるような連中じゃないのよ」

麦野「そう言うこと言わないのよ、さて…」

麦野はそう言うのと

麦野「じゃあ作戦実行よ♪」

そう言った瞬間、研究所のどこかで爆発音が聞こえた。

警備員？「なんだ！」

警備員？「敵襲か？」

警備員の慌てる声が聞こえる。

麦野「行くよ！」

4人は警備員の目を盗んで研究所の中に侵入した。

絹旗「しかし本当に超こそ泥ですね私達、しかも任務内容の中に『敵に正体がバレないように』なんて、だったら超テメエがやれって話です」

麦野「愚痴言わないのよ絹旗、その分報酬があるのだから」

絹旗「まあそうですけど…」

麦野（しかし確かに絹旗の言うとおり雅布自身がやれば成功率が高いのに…こんな地図まであるんだから）

麦野はそう考えていた瞬間！

警備員「ん？」

アイテム「！！！！」

警備員「誰だ！？」

【ドス！】

警備員「キュウ…」

麦野「流石ね絹旗」

絹旗「超お茶の子さいさいです」

絹旗の蹴手繰りで警備員を倒した。

アイテムの面子はその後、監視室を襲撃し、研究所の監視システムは制覇した。

麦野「えーと、確かこの液体の部屋は…」

絹旗「ここだと思います」

麦野と滝壺が監視室に残り他の2人が麦野の指示の元、「液体」を探している。

麦野「今ロックを解除した」

絹旗「了解」

絹旗はポケットから拳銃を取り出すと、ゆっくり部屋に入っていた。

麦野「絹旗、右斜め前方に人がいる」

絹旗「了解」

監視カメラをいじりながら麦野が敵を探してそれを絹旗が処理する。

その時に絹旗は研究員に液体の所在を聞く。

そんなこんなで時間がたった時

【ズガン！】

突然、爆発音が聞こえた。

麦野「絹旗！どうした！？」

絹旗「分かりません！フレンドがいるほうから超聞こえました！」

麦野「フレンド！？」

すると無線でフレンドから連絡が入る。

フレンド「ヤバイよ！武装集団が突入してくる！」

麦野「武装集団？」

フレンドの無線の向こうからは激しい銃の音が聞こえた。

フレンド「とりあえず、今の場所からは逃げてる！麦野！逃げ場所ある！？」

麦野「ちょっと待て！！」

麦野は急いで地図を見てフレンドの位置を確認する。

同時にフレンドの追っ手を突き放すためにフレンドが通った後ろに防火シャッターを閉める。

フレンド「ありがとう麦野！」

麦野「フレンダ！このまま下に降りて行けば絹旗と合流できるから合流しろ！」

フレンダ「了解」

絹旗「分かりました」

・
・
・
・
・
・
・

絹旗「結局この液体は超何なんですかね？」

フレンダ「私達は知らなくていいことよ」

麦野「そういうこと」

アイテムはちゃんと「液体」の資料を強奪し、武装集団を退けて任務完了した。

アイテムのお仕事（後書き）

「けいおん！ ～白球夢見て～」を次回は書きます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4207x/>

とある科学の超電磁砲？

2011年10月27日03時06分発行